

献血に関するアンケート調査結果

薬務水道課

1 調査目的

県では、献血率の減少が著しい県内の10代から30代の若年層を対象に、献血に対するマイナスイメージを払拭させ、献血参加を促すための啓発事業「未来へつなぐ献血プロジェクトぎふ」を展開しています。県民の皆さんの献血についての意識や現状を把握し、今後の施策の参考とさせていただくために、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象など

調査対象: 県政モニター802人(郵送モニター305人、インターネットモニター497人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和4年10月12日～10月31日

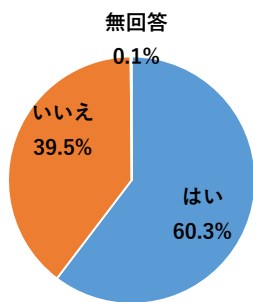
回収結果: 696人(回収率:86.8%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

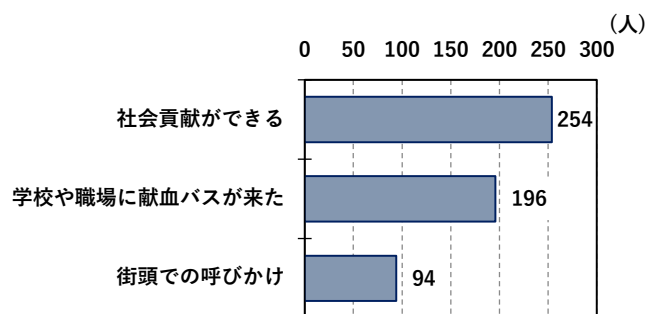
そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

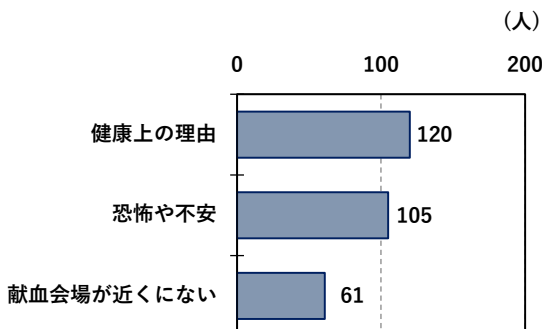
献血したことがあるか



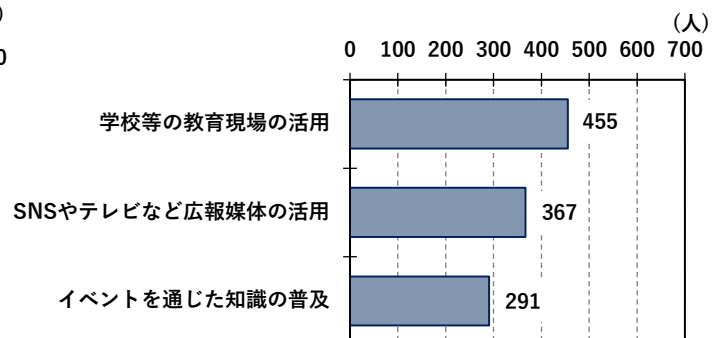
初めて献血した時のきっかけ



献血したことがない理由



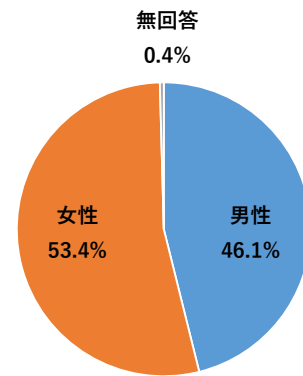
献血に興味を持ってもらうために必要なこと



4 回答者属性

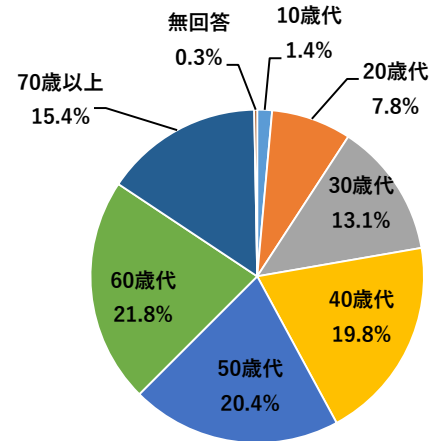
(1) 性別

	人数	割合
男性	321	46.1%
女性	372	53.4%
無回答	3	0.4%
計	696	100.0%



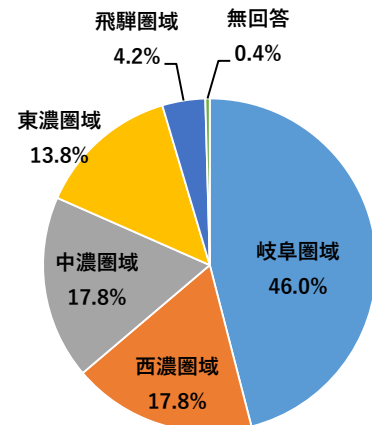
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	10	1.4%
20歳代	54	7.8%
30歳代	91	13.1%
40歳代	138	19.8%
50歳代	142	20.4%
60歳代	152	21.8%
70歳以上	107	15.4%
無回答	2	0.3%
計	696	100.0%



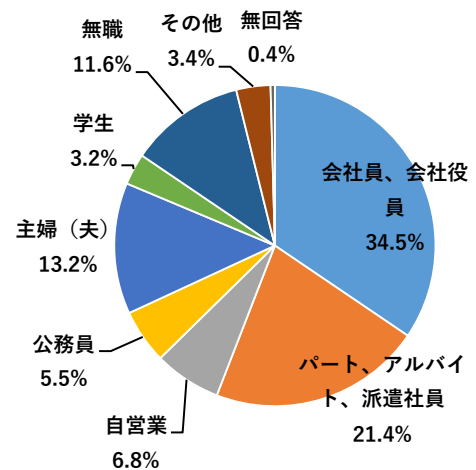
(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	320	46.0%
西濃圏域	124	17.8%
中濃圏域	124	17.8%
東濃圏域	96	13.8%
飛騨圏域	29	4.2%
無回答	3	0.4%
計	696	100.0%



(4) 職業別

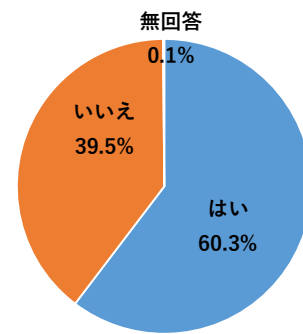
	人数	割合
会社員、会社役員	240	34.5%
パート、アルバイト、派遣社員	149	21.4%
自営業	47	6.8%
公務員	38	5.5%
主婦(夫)	92	13.2%
学生	22	3.2%
無職	81	11.6%
その他	24	3.4%
無回答	3	0.4%
計	696	100.0%



5 調査結果

問1 あなたは献血をしたことがありますか。

	人数	割合
はい	420	60.3%
いいえ	275	39.5%
無回答	1	0.1%
計	696	100.0%



問2 (問1で「はい」と答えた方にお尋ねします。)

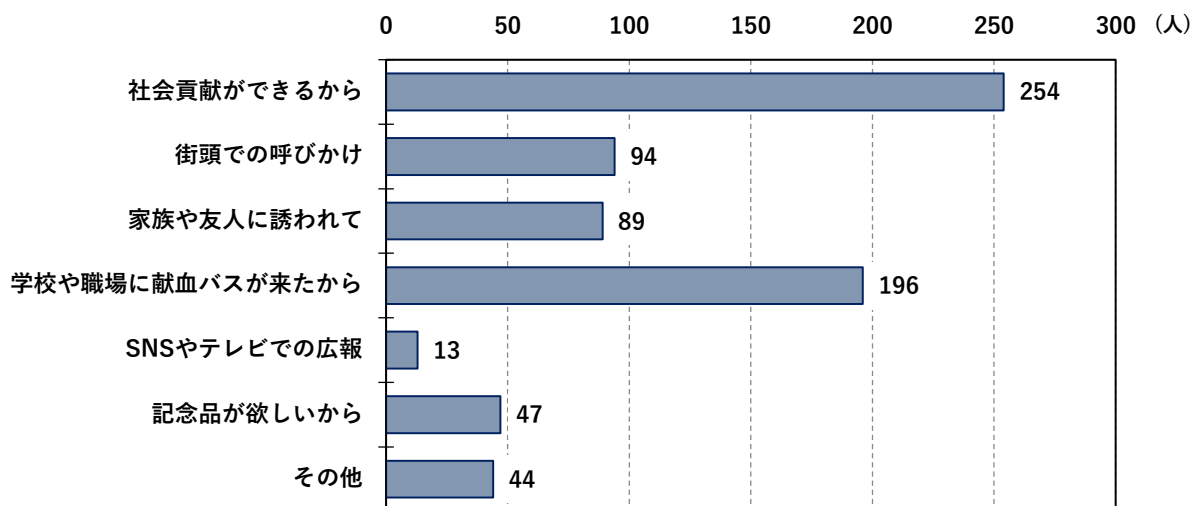
初めて献血をしたときのきっかけは何ですか。

回答者 420人 (複数回答)

	回答数	割合
社会貢献ができるから	254	34.5%
街頭での呼びかけ	94	12.8%
家族や友人に誘われて	89	12.1%
学校や職場に献血バスが来たから	196	26.6%
SNSやテレビでの広報	13	1.8%
記念品が欲しいから	47	6.4%
その他	44	6.0%
計	737	-

「その他」のうち主なもの (その理由)

- ・血液検査結果で自分の健康管理ができるから。
- ・お菓子や飲み物がもらえるから。



問3 (問1で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。)

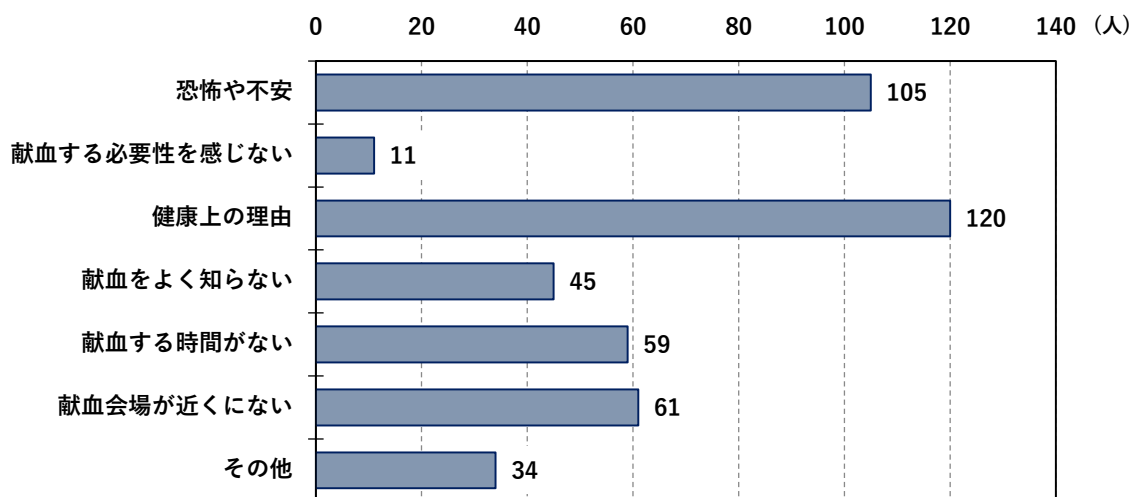
献血をしたことがない理由は何ですか。

回答者 275人(複数回答)

	回答数	割合
恐怖や不安	105	24.1%
献血する必要性を感じない	11	2.5%
健康上の理由	120	27.6%
献血をよく知らない	45	10.3%
献血する時間がない	59	13.6%
献血会場が近くにない	61	14.0%
その他	34	7.8%
計	435	-

「その他」のうち主なもの(その理由)

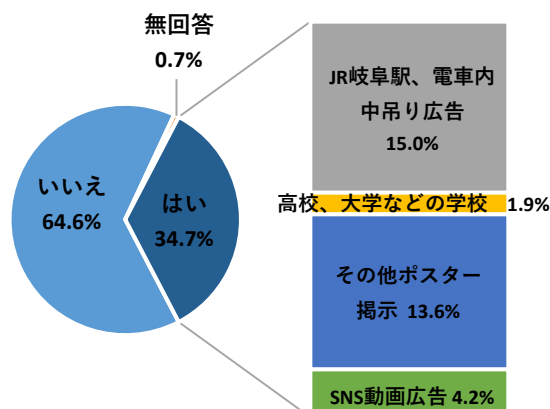
- ・過去に輸血を受けたことがあるから。
- ・体重や貧血など採血基準に満たなかったため。



問4 県独自の献血啓発ポスター「献血行こうぜ!」やSNSでの動画広告を見たことがありますか。

回答者 696人(複数回答)

	回答数	割合
はい		
JR岐阜駅、電車内中吊り広告	110	15.0%
高校、大学などの学校	14	1.9%
その他ポスター掲示	100	13.6%
SNS動画広告	31	4.2%
いいえ	475	64.6%
無回答	5	0.7%
計	735	-



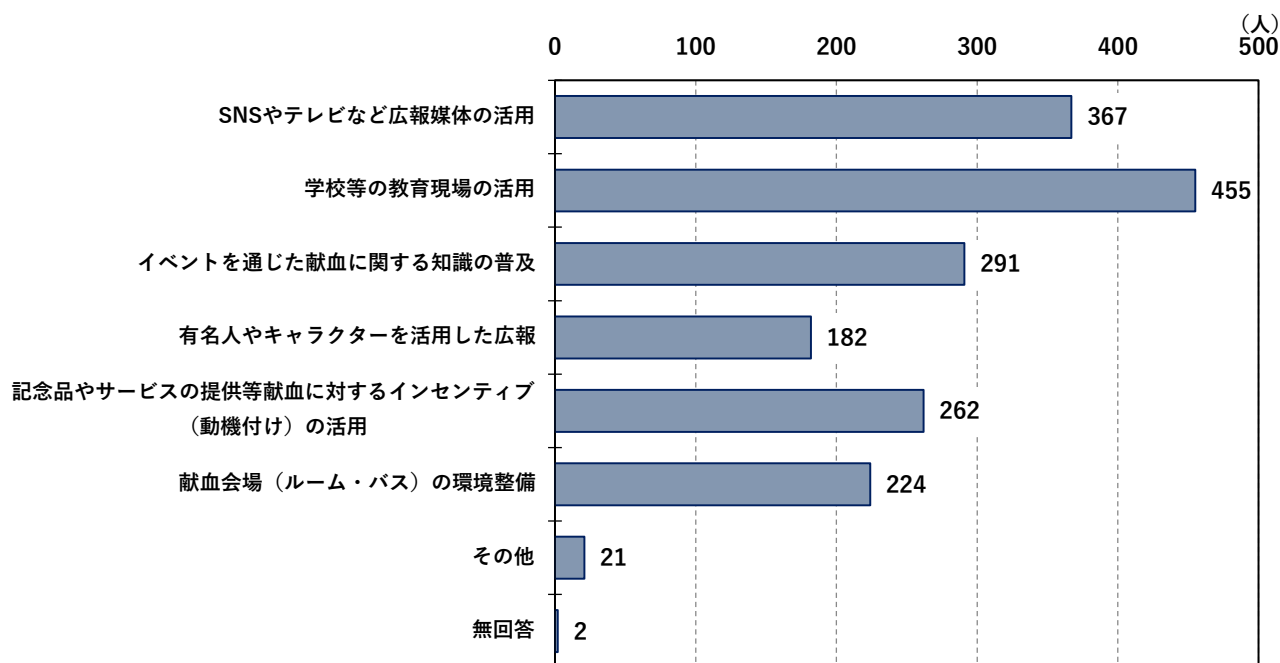
問5 若い人に献血に興味を持ってもらうために必要なことは何だと思えますか。

回答者 696人（複数回答）

	回答数	割合
SNSやテレビなど広報媒体の活用	367	20.3%
学校等の教育現場の活用	455	25.2%
イベントを通じた献血に関する知識の普及	291	16.1%
有名人やキャラクターを活用した広報	182	10.1%
記念品やサービスの提供等献血に対するインセンティブ(動機付け)の活用	262	14.5%
献血会場(ルーム・バス)の環境整備	224	12.4%
その他	21	1.2%
無回答	2	0.1%
計	1,804	-

「その他」のうち主なもの

- ・血液検査の結果がわかるなど、献血することによるメリットを伝える。
- ・なぜ献血が必要なのかということを発信していく。



問6 献血についてご意見・ご要望・ご感想などございましたら、お聞かせください。

(自由記述)

- ・家族が病気の治療のために随分と輸血にお世話になりました。献血して下さる方の有難さを身に染みて感じています。
- ・60歳になるまでに100回献血しようと数年前に思い立ち、頻繁に献血をしています。
- ・献血への興味はあります。時間とタイミングさえ合えばと思いますが、わざわざ献血だけの為にどこかへ足を運ぶ程ではないです。何かのついでに献血が出来れば…。
- ・一度、やってみたいとは思いますが。買い物へ行った先でやったりするけど、どれくらい時間がかかるかとか、どんな流れでどのようにするのかとか、分からない事だらけで、最初の一步が不安に感じます。
- ・コロナ禍における献血についてわかりやすく知らせていただけたら行きやすくなる。
- ・薬を飲んでいたらダメらしいなど、献血できる条件の知識がないので、学ぶ機会が必要。
- ・体重が50キロ以下で200mlの献血しかできないのですが、ショッピングモールなどで参加しようと思っても400mlしかないことが多いので行きづらいです。
- ・献血は善意の気持ちの問題かと思いますが、やはり何かしらメリットがあるものがついてまわれば、やってみようと思う人も増えると思います。
- ・献血は、人の命にかかわることですが、自分自身や身内の人間が本当に輸血を受ける状態にならないと、その大切さが認識できないと思います。その辺りをTV、ラジオ、SNS等を使って広めていかないと、献血者数は増えていかないと思います。
- ・身近にできるボランティアとしてPRしてください。
- ・県公式インスタグラムアカウントを見てとても良い情報提案だとはじめて知りました。